

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年12月19日
<p>出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、斎藤慎太郎 與猶茉穂（気象予報士） 杉本岳洋（HBC 北海道放送記者、旭川の医療を取材） 西村匡史（ロンドン支局、スレブレニツァの虐殺を取材）</p>		
<p>検証テーマ： オープニング、コロナの感染者、東京の GoTo、京都の観光地 愛知県全域と岐阜県で時短要請、アメリカのワクチン、調布市の道路陥没問題 【特集】 医療崩壊の瀬戸際で、コロナの最新情報</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング ・ コロナの感染者 ・ 東京の GoTo ・ 京都の観光地 ・ 愛知県全域と岐阜県で時短要請 ・ アメリカのワクチン ・ 関越道が一部区間で開通 ・ 群馬県で大雪警戒 ・ 北海道が大雪で JR 運休が相次ぐ ・ 山形県米沢市で除雪中の事故 ・ 全国の気象情報 ・ 高梨が W 杯で歴代最多表彰台へ ・ 調布市の道路陥没問題 ・ 世田谷一家殺害事件から 20 年 ・ 【特集】 医療崩壊の瀬戸際で ・ 【特集】 家族を虐殺された人は ・ スポーツ報道 ・ コロナの最新情報 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし 番組の冒頭で金平キャスター「ええ、桜を見る会、前夜祭の経費疑惑で安倍前首相が国会で誠意を持って答えたいと述べました。コロナで大変なこの年末にどさくさ紛れに幕引きを図ったなどと間違っても後から言われないうちに、まさに、これ、安倍氏の口癖ですが誠意を持って勿論国民公会の場できちんと説明をしていただきたいものです。」とコメントするシーンがあった。 このシーンに当てられた時間は 25 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ コロナの感染者：結論→特に問題なし 		

膳場キャスターの「では、ニュースです、今日も新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。東京都はこれまでで2番めに多い736人の感染を発表しました。」とのコメント、日下部キャスターの「JNNのまとめでは午後5時現在、1429人の感染が明らかになっています。」とのコメントを受けて、以下に朱記したようなVTRが取り上げられた。

"ナレ「東京都が今日発表した新規感染者は736人で過去最大となった一昨日の822人に告ぐ、過去二番目に多い人数です、年代別には若年層の多さが目立ち、20代が207人、30代が136人、40代が111人となっていて重症化リスクの高い65歳以上の高齢者は95人となっています、また現在入院している患者のうち重症者は昨日から4人減って62人となっています、この他全国では北海道で132人、兵庫県で127人、広島県で79人などとなっていて、岡山県では過去最多となる60人の感染が発表されました。JNNのまとめでは午後5時までに全国で1429人の感染が発表されています。」

加藤勝信（官房長官）「引き続き最大限の警戒が必要な状況と認識をしております。」

ナレ「一方、加藤官房長官はこのように述べるとともに、東京都が医療提供体制の警戒レベルを最高に引き上げたことに言及をし政府としては病床や宿泊療養施設の確保にかかる財政支援、医療提供体制のさらなる整備に向けて各都道府県を支援していきたいと協調しました。」

このトピックについて当てられた時間は106秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・東京のGoTo：結論→特に問題なし

東京のGoToについて、以下に朱記したようなVTRが取り上げられた。

"ナレ「こうした中、GoToトラベルで東京都を目的地とする旅行が停止されてから初めての週末を迎えました、都内の観光地、浅草では今日までの三日間年末恒例の羽子板市が開かれていますが、客足は例年と比べ大きく落ち込んでいるといいます。」

水門俊裕（東京歳之市羽子板商組合）「(客足は例年の5分の1くらいじゃないでしょうかね、天気が良くて少し寒いんですけど、昨日も風があんまりなくて、ただまあかなり人は減っています。」

三野村直己（ヨロヅヤ）「やっぱりね、GoToが外されちゃったんで、ちょっとそれから(売上が)ガクッと来ましたね、今まで結構GoToのクーポンも、うち使われていたんですけども、ちょっとそれも減ってきましたね。」

ナレ「28日からは全国でGoToトラベルが一斉停止となりますが、先行して始まった東京の観光地からは悲鳴が上がっています。」

このトピックについて当てられた時間は55秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・京都の観光地：結論→特に問題なし

京都の観光地について以下に朱記したようなVTRが取り上げられた。

"ナレ「京都の観光地嵐山、先月の紅葉シーズンのとこと比べ、渡月橋を歩く観光客の姿は少なく、土産物店を並ぶ通りも人の姿は大幅に消えました、28日からGoToトラベルが全国で一斉に停止されるのを前に、訪れた観光客は。」

記者「28日より前に予約しててどうですか？」

広島からの観光客A「まあ先にもう決めてたんで、まあラッキーあったかなくらいの、仕方ないと思いますね、こんだけ増えていけば。」

記者「例えば今日からだっただろうしています。」

千葉からの観光客B「来なかった、と思います。」

九州からの観光客 C「もう少し京都市のコロナ感染者が多かったらキャンセルしようかなとは思っていたんですけども。」

このトピックについて当てられた時間は 48 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・愛知県全域と岐阜県で時短要請：結論→特に問題なし

愛知県と岐阜県での時短要請については以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

ナレ「愛知県全域と岐阜県の 32 市町村では昨日から酒類を提供する飲食店などへの営業時間の短縮要請が始まりました。名古屋市中村区のこの居酒屋では要請通り午後 9 時に営業を終了し、閉店間際に来た人の入店は断っていました。」

影山裕二（かげ山店主）「時短要請もありますので、まあ泣く泣くお断りしました。」

ナレ「また岐阜市の繁華街にある店でも午後 9 時に最後の客を見送りました。」

米田健次（たこ焼き居酒屋ぐっぴい）「毎年の 12 月とガラッと雰囲気が違うので寂しい気持ちもあります、もうこれっきりにしたいなと思いますね。」

このトピックについて当てられた時間は 40 秒で放送法上は特に問題なし。

・アメリカのワクチン：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「アメリカで 2 つ目となる新型コロナワクチンの緊急使用が認められました、一方ワクチンを巡って詐欺が起こる恐れがあるとして、当局が注意を呼びかける事態となっています。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

"ナレ「FDA アメリカ食品医薬品局は日本時間の今朝、緊急使用許可が申請されていたモデルナのワクチンについて承認したと発表しました。アメリカで緊急使用が許可されたのはファイザーなどが開発したワクチンについて 2 例目です。」

尾関淳哉（報告）「そんな中、富裕層が多く住むビバリーヒルズの医師のもとにはお金を出すのでワクチンを打たせてほしいという問い合わせが相次いでいると言います。」

ナレ「西部カリフォルニア州で取材に応じたのは俳優のトム・クルーズさんや歌手のジャスティン・ビーバーさんらを見ているという医師。」

イーサン・アリ医師「一日中、それも毎日ワクチンの入手方法を知りたい人から何百もの電話やメールが来ます。」

"ナレ「今週始まったアメリカでのワクチンの接種は医療関係者や高齢者などに優先的に投与されています。しかし、医師は具体的な名前は言えないとしたものの映画スターやスポーツ選手等富裕層だけでなく、主婦などあらゆる人達がワクチン接種を希望していると言います。」

イーサン・アリ医師「多くの人が電話をかけてきて、いくらでも払う、とか、病院に寄付すると言うんです。」

ナレ「医師はこうした申し出をすべて断っていますが、提示された最高額は 5 万ドル、およそ 515 万円だったと言います。さらに、こうした希望者を狙って『ワクチンが打てる』などと謳い、お金を騙し取る詐欺が起こる恐れがあるとして、ロサンゼルス在地元当局は注意を呼びかけています。」

このトピックについて当てられた時間は 129 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・調布市の道路陥没問題：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「東京調布市で道路の陥没が見つかった問題でネクスコ東日本がトンネル工事との因果関係を認めたことを受けて、近隣住民が今日、会見を開き、納得するような説明になっていない、と訴えました。」

とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

ナレ「この問題は、今年 10 月、東京調布市の住宅街で道路が陥没し、その後直ぐ側の地下でも空洞が 2 つ見つかったものでネクスコ東日本は昨日、トンネル工事との因果関係を認め謝罪しました。これを受けて近隣住民が今日、会見を行い保障などの今後の対応を求めた上で、昨日の説明に不満を訴えました。」

"滝上広水（外観被害住民連絡会調布会長）「とても住民が納得するような説明にはなっていないかった。」

近隣住民「まるっきりこれは、正しいデータの公表は期待できないのではないか、という思いを強く持ちました。第三者委員会は不可欠です」"

ナレ「今後、住民らは納得できる原因究明のため、第三者委員会の設置を求めていく予定です。」

このトピックについて当てられた 73 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】医療崩壊の瀬戸際で：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「特集です。2つの病院で500人を超えるクラスターが発生したことで、北海道旭川市の医療体制が危機に直面しています。今、何が起きているのでしょうか？」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

ナレ「新型コロナウイルス。重症者専用の ICU 集中治療室。」

看護師「患者さんの状態を整えて血圧、心拍数などのバイタルサインの確認、人工呼吸器の確認をします。」

ナレ「旭川医科大学病院。北海道北部の新型コロナウイルス治療の最前線だ。」

看護師「今から戻すって。伏臥位」

ナレ「ベッドの上でうつぶせになっている60代の男性。肺炎と高熱で今月上旬、この ICU に入った。人工呼吸器をつけなければ生きられない。」

看護師「通常であれば、人工呼吸器をつけた患者さんは上を向いてますが、肺の状態を良くするために、こう、伏臥位と言って、腹ばいの状態で夜間は見えています。今からそれを戻します。」

ナレ「うつ伏せから仰向けへ。男性は大柄で、5人がかりで体の向きを変える。」

看護師「呼吸器大丈夫だね。先生の合図をお願いします。90度。はい。いち、にの、さん。よいしょ。」

看護師「腕抜けますか？けっこう腫れてるんですよ。ここ ECMO 入ってたところ。送血管のところ出血しています。」

ナレ「男性は一時、ECMO、人工心肺装置を装着。生死の境をさまよった。2日前に ECMO を外したばかりだ。」

看護師「これ血腫除去していませんもんね。今日鎮静を覚ましていく感じでよろしい？バイタル大丈夫ですかね？」

ナレ「肺の状態を確認するために CT 室に移動する。呼吸を改善する手術が可能か見極めるためだ。」

看護師「開けまーす。ストレッチャー」

ナレ「ドアの外で待ち構えていた看護師が、ストレッチャーを拭いて消毒する。」

ナレ「移動するのも4人がかりだ。」

マシン「息を吸って止めてください。楽にしてください。」

ナレ「ICU で治療中の別の高齢男性。重症だがリハビリが必要だ。」

理学療法士「こんにちは そのままでいいですよ。」

ナレ「理学療法士が、男性の腕や足を曲げたり伸ばしたりする。感染リスクは高くなるが、血流を良くし、患者の回復後に向けた、サポートにもなる。」

ナレ「医大病院の感染者用 ICU は5床ある。だがさらなるクラスターに備えるため、全ての病床を埋めること

はできない。」

旭川医科大学病院 古川博之病院長「緊急の患者さんも受け入れないといけないし、コロナの患者さんを受けなくてはいけないけど、そのどちらかが取れなくなった状態が、私は崩壊と考えています。」

古川病院長「救える命が救えなくなった状態。というふうに考えております。」

ナレ「すでに新型コロナウイルス以外の、患者の受け入れにも影響が出ている。」

(CM)

吉田病院 馬場勝義院長「新型コロナウイルスのクラスター発生が確認されました。」

ナレ「旭川市で最初に新型コロナのクラスターが発生したのは、先月6日。吉田病院の6階病棟で、9人の感染が確認された。その後感染は爆発的に広がり、患者職員、200人以上が感染した。」

ナレ「さらに、別の病院でも」

旭川厚生病院 森達也院長「患者さんの院内感染を起こしてしまったこと、この場を借りてお詫びいたします。」

ナレ「コロナ患者を受け入れ、医療の砦となっていた期間病院の一つ、旭川厚生病院でも院内感染が発生。感染者は、医療スタッフにも及び、国内最大、およそ300人ものクラスターとなった。」

ナレ「あいつぐクラスターの発生に、北海道と旭川市は、自衛隊の派遣要請に踏み切った。」

ナレ「金平キャストが、現場に入った。」

金平「病院としては国内最大の新型コロナウイルスのクラスターとなった旭川厚生病院の前にあります。雪が降りしきっています。まさか私と生まれ故郷の旭川がこういう事態に見舞われるとはこういう風に取材しております。胸が痛む思いがします。」

ナレ「普段は多少の雪でも多くの人出で賑わう買物公園だが、感染が拡大する中、人影は疎らだ。」

金平「買い物公園はあの、観光客いっぱいいたよね？」

旭川市民「そうですね。ラーメン村の方も多くいたのに、今全然なくて、ちょっとびっくり。いやあ本当に予想外。」

金平「予想外？」

旭川市民「注目浴びるなら、札幌か、その辺だと思ってたんで……。いくら北海道2番目の都市とはいえ、もう全然田舎ですからね。」

旭川市民「恐ろしいっちゃう感じ。」

金平「恐ろしい？なんか病院とかよく行かれたりするんですか？」

旭川市民「ですね/主人が癌で定期的に行っているんですけども、その付き添いについて行くんですけど、その時も不安で不安で。」

金平「旭川市内には5つの基幹病院がありまして、北海道北部の広いエリア、四国の面積に匹敵する医療圏をカバーしているわけです。ですからそのうちの一つでも、機能しなくなると、地域医療全体が崩壊する危機に瀕するわけです。」

ナレ「最北の稚内まで広がる道北地方。旭川の医療機関はその広大なエリアを担う、いわば命綱だ。市内には5つの基幹病院がある。その中でクラスターが発生した旭川厚生病院は外来診療を全て休止する事態に陥っている。残る4つの病院も常に感染の危機にさらされている。」

ナレ「遠方の救急患者を運ぶドクターヘリを唯一持っている旭川赤十字病院。今の状況について院長はこう訴える。」

旭川赤十字病院 牧野憲一院長「病院に対して新型コロナ病床を増やしてくださいという要請をたくさんしてくるわけですよ行政は。ですけどもそれ以前に、患者を増やさない努力をもっとしてくださいと、いうことを言い

たいです。というのは、とにかくいつ病院にそのコロナの方が紛れ込んでくるかもわからないような状態です。そうするとすぐにクラスター出ます。この病院ではいつ起きてもおかしくないと思っております。」

ナレ「赤十字病院でも今月 7 日、新たな感染者が出た。それが出産直後の女性だったことで、さらに問題が広がった。当初女性は、およそ 300 人ものクラスターが出た（旭川）厚生病院で出産する予定だったが、急遽赤十字病院に変更された。出産後に発熱し、陽性だったため、赤十字病院でも妊婦の受け入れを中止する事態に。出産予定だった 40 人は、他の二つの基幹病院に振り分けられたのだ。」

ナレ「この 41 歳の女性もその一人だ。」

女性「(上の) 息子を取り上げてもらった先生にやっぱり取り上げてもらいたいかなと思って。」

ナレ「女性は二人目の出産を再来月に控えている。厚生病院で産む予定だったが、赤十字病院からさらに別の病院への変更を余儀なくなれた。」

女性「ここまでは、その、厚生病院の先生に、見てもらって・・・」

女性「バスに乗る前に自宅に電話が来て、『陽性の患者さんが、その、コロナの患者さんが出て、今日は診れないとか・・・』

ナレ「コロナ下の出産に不安をめぐり切れない。」

女性「この先どうなるんだろうっていうのは思いましたね。もう家族も入れないから、落ち着いて戻れるのを、願っています。」

ナレ「出産の振り分け先になっている病院には、大きな負担がかかっている。市立旭川病院は、これまで月に 7、8 件の分娩を扱ってきたが、今は 30 件を超えと言う。」

金平「その体制は 足りてるんですか？」

市立旭川病院 伊野善彦医師「実際問題今回かなり厳しいです。足りていません。特に深刻なのが助産師不足。11 時の助産師でもって、日勤の時間帯、それから準夜勤・夜勤三交代の、3つの時間帯を割って行くので、病院が変わるっていうのは、途方もないストレスだと思いますし、転院して来られて、外来で泣いている患者さんもいらっしまったっていうのは聞いています。」

伊野医師「助産師さんと話ができて、それでようやく受診できたことで、安心されて、涙を流される方もいたと聞いています。」

ナレ「長期化する新型コロナウイルスとの戦い。医療従事者の疲労はすでに限界を超えている。」

ナレ「軽症から中等症までの患者を受け入れている旭川医療センターの隔離病棟取材した。看護師は、医療用のマスクにアイガードを装着。患者と接する時はさらにこの上から、マスクを 1 枚重ねる。看護師に小型カメラを渡して撮影してもらった。」

看護師「よかったら手袋もちょうだい。」

ナレ「手袋は 2 枚重ねてはめ、患者と接するごとに外側の手袋を交換する。防護服はウイルスを通しにくい素材で通気性が悪く、きてると汗だくになる。」

看護師「すごい汗。血圧とか測るだけでべっちゃべちゃ。(同僚は) 脱水を起こして足がつったって。水も満足に飲めなくて、それで戻った時に両足つったって。」

ナレ「医療従事者にのしかかるのは、看護の負担だけではない。」

(CM)

看護師「お食事きましたー。」

ナレ「旭川医療センターの感染者専用の隔離病棟。この男性は、200 人を越すクラスターが発生した吉田病院から転院してきた。」

看護師「熱何度でした？6度3分ね。」

ナレ「男性は、80代。心臓に持病があるが、人工呼吸器は必要なく、中等症と診断された。39度前後の高熱が続き、味覚障害もあった。」

患者「おいしかったよ。」

看護師「よかったー。食べれるようになってよかった。」

患者「最初はもうねー、」

看護師「食べられなかったですもんね。こわくて（だるくて）。」

患者「なんかねー味が薄いような気がして、」

看護師「味がねどうしてもね・・・今は感じますか？」

患者「今はちょっとは、おいしくなってきた。」

看護師「お体。ほんとちょっと戻ってきたんですね。」

ナレ「話しかけてきた患者と、看護師が言葉を交わす。」

看護師「背もたれに下げたいときとか、看護師を呼んでくださいね」

ナレ「感染防止のため、会話は最小限が原則だが・・・家族と面会できない中、精神的なケアとしても重要だという。」

ナレ「集められたゴミ袋。ゴミ箱には感染性廃棄物を示すシールが貼られている。看護師は患者が使ったティッシュペーパーや箸から感染が広がらないよう、その処理にも注意を払う。」

看護師「目やにがついてるから、綺麗にしますよ。ちょっと触りまーす。」

ナレ「こちらも、吉田病院から転院してきた新型コロナの中等症の患者だ。高齢で寝たきりの状態だ。」

看護師「痛い？ うーん、ごめんね。開いた。目が開いた。見えます？うん。」

看護師「お薬入りますよー。」

ナレ「飲み込むことができず、腹に通した管から薬を体内に入れていく。吉田病院に入院していた患者は、病状としては軽症でも、高齢で、食事や排泄の介助が必要な人が多かった。」

ナレ「感染患者を受け入れた病院では、その分、看護師の負担が増している。」

旭川医療センター 正木あゆみ看護師長「自分で、歯磨きだとか、体を拭いたりとか、起きたり寝たりっていうことも含めてですけど、できない患者さんへの対応はやはり時間は要するですよ。どちらにしても。それがさらに防護服を着て、やらなきゃいけないとなると、そうですね、体力的には厳しいところもあります。」

ナレ「そして看護師達は、勤務時間以外でも、行動の自粛を促されている。院内の張り紙には、宴会、個人も自粛。業者面談、全面禁止の文字が。」

正木看護師長「外に出て、ご飯に行ったりということはもうコロナになってからほとんどしていませんね。自分たちが感染源になるって言うことが、やっぱりいろんな影響を与えてしまうので、自然と行動の自粛につながってるんじゃないかと思うんですけど。」

ナレ「命を救う使命を持った看護師や医師達は、懸命の治療を続けている。」

ナレ「吉田病院で、最初のクラスターが発生した直後から現場に入り、感染対策の指導を続けてきた北海道医療大学の塚本容子教授。看護師でもある塚本教授は、吉田病院へ駆けつけた時の、職員たちの様子をこう語った。」

北海道医療大学 塚本容子教授「看護師の管理者の方たちが次々と感染をできてしまっていて、もう指揮系統がないような状況にはなっていた。」

塚本教授「『自分たちがもしかして加害者になっちゃった』っていうような、クラスターの病院のこれ、みんなスタッフは思うと思うんです。で、あたしが感染対策をこう見に行くと、看護師さん達が『あたしたちの本当に何

が悪いんですか?』って、悲痛な声であの・・・」

金平「加害者のような罪悪感みたいのを覚えられてるというわけですか?」

塚本教授「そうですね。職員に言われるのが『本当にすいません』で、謝るんですよ。その、いや、謝る必要はないし、これはどこでも起こることだからとは、いつも言うんですけど、患者さんを看取らないといけない時、それほど、多分辛いことは、ないんじゃないかなと思います。・・・すいません」

金平「いえ、すいませんごめんなさいね。」

塚本教授「いや、いやいや、いや絶対言わなくちゃいけないとは思ってたんですけども、本当に現場の人たちの辛さを考えるとね。」

(CM)

CMを受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

膳場「HBC 北海道放送の杉本岳洋記者です。医療従事者の途方もない努力とそれから忍耐に支えられて成り立っているなど感じたんですけども、実際に取材をしていかがでしたか?」

杉本記者「印象的だったのが、病院職員の感染予防への意識の高さです。例えばスマートフォンを操作するにも関節の裏を使って押す。食事をするときも同じように食べた後、マスクをして咀嚼する。もちろん旅行なんでものはしませんし、ある人は家族への感染を防ぐために、部屋を借りている。そういう職員もいました。」

日下部「あの、高齢の患者さんとなるとね、一般的な看護に加えて、介護も必要になってくるわけですよ。」

杉本記者「えー要介護者、これが一人増えるとですね、やはり一対一で今まで対応できていたのが、二人三人と必要になってきます。特に吉田病院は、高齢者が多くて、瞬く間に人手不足というのが深刻化しました。クラスターがピークアウトした今もですね、まだ不安というのは残っています。」

金平「あのね、旭川、僕生まれ育った故郷なんで、取材する側と取材される側の狭間において、非常に複雑な気持ちになったんですけど、その取材するとね、旭川っていうのは、お医者さんとか病院同士がですね、比較的コミュニケーションが良好で、互いに補い合う関係のがですね、できてかろうじて維持されていて、ただ基幹病院が旭川ほどないような地域ではですね、地域医療体制というのがもろいことになるんじゃないかっていう杞憂、危惧が生まれたんですけども、

あの、病院職員は終わりの見えない中ですね、気力と使命感だけで、医療に従事していると。えーその中、行政にはですね、実現可能な目標や、収束をイメージできる政策。そういうものを示すなど、強いリーダーシップが求められるのではないかと思います。」

このトピックについて当てられた時間は 1363 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・コロナの最新情報：結論→特に問題は見られなかった。

番組のクロージングでコロナの最新情報について膳場キャスターによって「さて、新型コロナウイルスについて、今日これまでに全国で 2915 人の感染が発表されています。今日、東京都では過去二番目に多い、736 人の感染が発表されました。また、埼玉県では 226 人の感染を発表し、過去最多を更新し、神奈川県では過去二番目に多い 315 人の感染が発表されています。この他、大阪府で 311 人、愛知県で 230 人、北海道で 132 人などになっていて、JNN のまとめでは午後 6 時 30 分までに全国で 2915 人の感染が発表されています。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 47 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨 特になし
検証者所感 ・アメリカのワクチン アメリカでは今週始まったワクチンの接種は医療関係者や高齢者などに優先的に投与されているという現状の中で、「富裕層が多く住むビバリーヒルズの医師のもとにはお金を出すのでワクチンを打たせてほしいという問い合わせが相次いでいる。」とのことであるが、まさにこうした高いお金を出してでもワクチンを打ちたいという人に対して対価を求め優先権を割り当てていくべきではないだろうか。そうすることによって製薬会社も医療関係者や高齢者に供給するよりも多くの売上を立てることができ、それはワクチンのさらなる生産体制増強のための原資になり、増産が行われることによって結果としてワクチンの供給量も増えるとともに、ワクチン単価も下がり、医療関係者や高齢者あるいは一般の人の需要にも応えられるようになるのではなかろうか。優先権には非常に高いプレミアムがつくという話になるが、それとてオークション方式にすれば、いち早くワクチンをほしいと思っている人たちにとって納得する価格にすることができるわけで、それは他の人々よりもいち早くワクチンを接種する、あるいは普通に待っていればいつに接種できるかわからないという不確実性から解放されるのに十分な対価である、という話に過ぎず、優先権がニーズに対して法外な価格になるということではないだろう。 ・【特集】医療崩壊の瀬戸際で 旭川は医療崩壊の瀬戸際にあるとのことであるが、そのような場所に金平キャスターは取材に行っているが、こうした行動こそ感染を広げる恐れがあるのではないだろうか。また、金平キャスターも 65 歳を超えており決して重症化リスクが低いとは言えないわけだが、そうした中でまさにクラスターが発生している旭川に取材に訪れるというのは些か不用心ではないだろうか。